

米寿祝賀会の思い出

高木 益太郎

私が大阪英語研究会に入会させてもらったのはまだ在職中の昭和56年（1981年）の春でした。入会したとき徳永さんから自宅に電話を頂きいろいろ励ましの言葉を受けたことを思い出します。直接の紹介は高校、大学、会社での大先輩である今は亡き角田さんでした。このご両人は共に第六高等学校の先輩です。ご両人とも水上セミナーで、又徳永さんとはグループ研でも共に勉強させて戴きました。

水上セミナーで徳永さんは丹念に講義録を取られ、時々先生に質問して確認しておられたことが鮮明に思い出されます。耳目の弱くなった年配者にとって殊の外努力のいる仕事であったに違いありません。この講義録は徳永さんの努力の結晶で、同氏なしでは実現しなかったものです。またグループ研にも熱心に出席され、つい最近、（1991年9月）担当された英文の和訳もこなしておられました。超電導等について種々議論したのも4～5年前のことです。

その後足が少し不自由になられてセミナー出席も途絶えがちになりましたが昨‘93年徳永さんの米寿を祝う会が8月20日茨木京都ホテルで行われました。会の始まる前ロビーで六甲での思い出話をした所大変なつかしがられた事を思い出します。またパーティーの宴たけなわの頃、六高の校歌と寮歌などを合唱したことが最後となりました。このとき徳永さんは小さな声で口ずさんでおられたことが耳の底に残ってい

ます。

当時お見受けした処足は不自由なものでもまだお元気でした。本年年が明けて床にしておられると聞き心配しておりましたが、4月初めに訃報に接し驚いた次第です。大阪工業英語研究会の生みの親である徳永さんを偲んで思い出を記しましたが、同氏の努力と業績を引き継ぐこの名誉と伝統のある研究会を益々発展させて工業界に貢献できるよう努力しなければならないと、会員の一人として思う次第です。